

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-012	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol Intake and Prevalent Kidney Stone: The National Health and Nutrition Examination Survey 2007–2018 アルコール摂取と腎結石：2007～2018 年全国健康栄養調査より		
執筆者		
Shringi S, Raker CA, Chonchol M, Tang J.		
掲載誌		
Nutrients. 2024 Sep 1;16:2928. doi: 10.3390/nu16172928.		
キーワード		PMID
アルコール、ビール、ワイン、リカー(蒸留酒)、腎結石		39275244
要 旨		
背景： アルコール摂取と腎結石 (KSD) との関連性は、現在の臨床データでは明らかな証拠がない。		
方法： 我々は、2007～2018 年の国民健康栄養調査 (NHANES) を用い、ロジスティック回帰分析でアルコール摂取と腎結石の罹患率との関連を解析した。		
結果： 計 29,684 人の参加者を最終分析対象とし、その内の 2,840 人に腎結石があった (SF 群)。平均アルコール摂取量は、SF 群では 37.0 ± 2.4 g/日であったのに対し、非 SF 群では 42.7 ± 0.9 g/日であった ($p = 0.04$)。ビール (オッズ比 (OR) = 0.76、95%CI : 0.61~0.94、 $p = 0.01$) およびワイン (OR = 0.75、95%CI : 0.59~0.96、 $p = 0.03$) の摂取は腎結石罹患率の低下と強く関連していたが、リカー (蒸留酒) 類摂取は関連がなかった。さらに、ビールおよびワインの摂取が結石形成に及ぼす影響は用量依存的であった。1~14g/日のビールを飲む参加者と非飲酒者を比較した場合の OR は 1.41 (95% CI : 0.97~2.05、 $p = 0.07$)、14~28g/日を超えるビールを飲む参加者と非飲酒者を比較した場合の OR は 0.65 (95%CI : 0.42~1.00、 $p = 0.05$)、28~56g/日を超えるビールを飲む参加者と非飲酒者を比較した場合の OR は 0.60 (95%CI : 0.39~0.93、 $p = 0.02$)、56g/日を超えるビールを飲む参加者と非飲酒者を比較した場合の OR は 0.34 (95%CI : 0.20~0.57、 $p < 0.001$) であった。興味深いことに、ワイン摂取の影響は、適度な量 (1日 14~28 g 超) を飲む参加者だけで有意で、非飲酒者と比較した OR は 0.54 (95% CI: 0.36~0.81、 $p = 0.003$) であったが、低用量 (1日 1~14 g) および大量 (28 g 超) のワインを飲む人を非飲酒者と比較するとこの影響は失われた。これらの影響はスプラインモデルで一貫していた。		
結論： この研究は、中程度～大量のビール摂取と適度なワイン摂取の両方が腎結石のリスク低下と関連していることを示唆している。因果関係を明らかにするには、さらに前向き研究が必要である。		